

平成22年度予算を家計に例えてみると

収入

区 分	平成22年度	平成21年度	増 減 額
月収 (市税などの自主財源)	41万6,700円	42万6,700円	△ 1万円
親からの支援など (国・県支出金など)	13万9,000円	11万4,700円	2万4,300円
ローンでまかなっている額 (市債)	7万5,200円	6万2,500円	1万2,700円
収入計(月額)	63万 900円	60万3,900円	2万7,000円

支出

区 分	平成22年度	平成21年度	増 減 額
食費(人件費)	10万9,400円	11万6,000円	△ 6,600円
家族の医療費など(扶助費)	13万 900円	10万3,900円	2万7,000円
ローンの返済(公債費)	8万5,200円	8万9,700円	△ 4,500円
自宅の増改築・修繕費 (投資的経費・維持補修費)	6万7,000円	7万2,200円	△ 5,200円
友人への援助金など(補助費 等・投資及び出資金・貸付金)	14万 500円	12万7,300円	1万3,200円
生計を別にしている家族への 仕送り(繰出金)	4万2,200円	4万 500円	1,700円
光熱費など(物件費など)	5万5,700円	5万4,300円	1,400円
支出計(月額)	63万 900円	60万3,900円	2万7,000円

平成22年度の市税などの自主財源を年収500万円(月収41万6,700円)として家計に例えて算出しました。(各年度の予算額を、約1,000万分の6にして月額を算出しました。)

収入

- ・ **月収(市税などの自主財源)**は、給料の基本給が下がったこと(市税収入が景気の低迷や市民税減税の実施により減収)などにより、前年度から1万円減少しました。
- ・ **親からの支援など(国・県支出金など)**は、**家族の医療費など(扶助費)**の支払いが増えたことなどにより、前年度から2万4,300円増加しました。
- ・ **ローンでまかなっている額(市債)**は、特例的な借入の増(地方交付税の肩代わりである臨時財政対策債の増額や第三セクターの経営健全化等を図るための第三セクター等改革推進債の発行)などにより、前年度から1万2,700円増加しました。

支出

- ・ **食費(人件費)**は、事務の集約化や民間委託などによる定員226人の削減、諸手当などの給与制度や特別職の報酬の見直しを行ったことなどにより、前年度から6,600円減少しました。
- ・ **家族の医療費など(扶助費)**は、子どもにかかる医療費など(子ども手当、子ども医療費の助成など)や病気などで働けない方にかかる医療費など(生活保護扶助費)の支払いが増えたことなどにより、前年度から2万7,000円増加しました。
- ・ **友人への援助金など(補助費等・投資及び出資金・貸付金)**は、商売をしている友人への貸付金(金融対策費貸付金)の増額や交通事業を営んでいる友人の借入金に対する損失補償の履行などにより、前年度から1万3,200円増加しました。